

# 「山が迫る」絶叫

## 奄美南部豪雨

1時間雨量100を越す猛烈な雨が2日、また奄美大島を襲った。垂れこめた雨雲から稲光と雷鳴がや

# 診療所に土砂、間一髪

まず、たたきつける雨で瀬戸内町の中心部は見る見るうちに水没。土砂崩れも相次ぎ、間一髪で命拾いした診療所の医師は「あと数分ずれていたら」と青ざめた。昨年の奄美豪雨の爪跡がまた生々しく、残る奄美市住用では再び緊張が走った。(1面参照)

裏山が崩れ、大量の土砂と倒木が窓を突き破って流れ込んだ瀬戸内町古仁屋の町へき地診療所。1階の山側にある診察室など6室が押しつぶされた。

椅子と机は土砂に埋まっていた。

人を含む28人がいた。幸い診察開始前で土砂に押しつぶされた山側の診察室に患者はいなかった。入院患者は消

防や自衛隊が近隣の病院に搬送した。

平野さんは「数分ずれば聴診器で鼻先に気が付かず、患者も

午前8時半ごろ、診察室にいた平野拓郎医師

飛び出し、難を逃れた。数秒前まで座っていた

2日の集中豪雨で瀬戸内町東部の嘉鉄、蘇刈の両集落は、同町中心部の古仁屋などに通じる県道が数力所で寸断され、孤立状態に陥った。両集落は断水したほか、停電も深夜まで続き、瀬戸内町は同日夕、飲料水や非常食、毛布などの緊急物資を古仁屋港から船で運んだ。

同町古仁屋の高台にある教職員住宅では午前9時前、裏山が高さ20メートルにわたって崩れ、土砂が建物手前まで押し寄せた。家族を案じて住宅に戻っていた古仁屋高校教諭の後藤陸男さんは「雷のよ

うな怒号がした直後、木と土砂が山を走るように崩れた。

昨年10月の奄美豪雨で被害が集中した奄美市住用西仲間でも、住用総合支所前の国道58号などが一時冠水、住民約30人が公民館などが、繰り返す大雨で不安になる」と話した。



孤立した集落に届ける毛布や食糧など支援物資を船に積み込む役場職員ら  
＝2日午後6時ごろ、瀬戸内町古仁屋

### 瀬戸内2集落、孤立

### 船で救援物資運ぶ

2日の集中豪雨で瀬戸内町東部の嘉鉄、蘇刈の両集落は、同町中心部の古仁屋などに通じる県道が数力所で寸断され、孤立状態に陥った。両集落は断水したほか、停電も深夜まで続き、瀬戸内町は同日夕、飲料水や非常食、毛布などの緊急物資を古仁屋港から船で運んだ。

同町古仁屋の高台にある教職員住宅では午前9時前、裏山が高さ20メートルにわたって崩れ、土砂が建物手前まで押し寄せた。家族を案じて住宅に戻っていた古仁屋高校教諭の後藤陸男さんは「雷のよ



裏山が崩れ敷地内に土砂や岩が流れ込んだ教職員住宅  
＝2日午後、瀬戸内町古仁屋